

グローバル経済時代の産業と雇用

「グローバル経済時代の産業と雇用構造研究委員会」(*主査)

* 関口 末夫 (成蹊大学経済学部教授)	樋口 美雄 (慶應義塾大学商学部教授)
浦田秀次郎 (早稲田大学社会科学部教授)	若杉 隆平 (横浜国立大学系学部教授)
玄田 有史 (学習院大学経済学部助教授)	鷲尾 友春 (日本貿易振興情報計画課長)
野田 博明 (日本興業銀行広報部副部長)	他

1980年代後半から、円高の進行に伴って日本企業の海外進出が進み、日本経済のグローバル化による産業の空洞化の懸念が繰り返し言われてきた。加えて、97年夏、順調に成長を重ねてきたアジア経済が金融・経済危機に突入しただけでなく、日本でも金融危機が巻き起こり、ようやくバブル崩壊から立ち直った日本経済も再び底の見えない不況へと陥り、失業率は過去最悪を更新し続けている。

連合総研は、労働組合のシンクタンクとして、雇用・賃金の問題について常に関心を持ってきた。特に近年、国際貿易や国際投資等の国際的状況の変化と雇用・賃金問題の関係に注目した研究の必要性を感じていた。

そこで、1997年春から関口末夫成蹊大学経済学部教授を主査とする「グローバル経済時代の産業と雇用構造研究委員会」を設置し、国際経済学・労働経済学の専門家、実務家の委員による議論を重ねてきた。

本書は、同委員会の最終報告書としてとりまとめたものであり、国際経済学・労働経済学の幅広い領域についての各委員の専門的な知見および、連合と連合総研が共同で実施した「グローバル経済下の中小企業経営に関する調査」で得られた知見を大いに活用して執筆されたものである。読者の皆さんには、不況の暗い雰囲気にも萎縮することなく、経済のグローバル化の積極面を読みとっていただければ幸いである。また、本書が経済のグローバル化の中で日夜努力を重ねておられる中小企業の皆さんにとっても励ましとなることを願ってやまない。

目次

総論 広い視野からの展望	第6章 中小製造業の技能形成と雇用調整
第1章 拡大・深化する国際資本市場とアジアの通貨・金融危機からの教訓	第7章 日本経済のグローバル化と技術革新 — 理論と実証 —
第2章 日本産業にとってのアジア	第8章 進化するグローバル企業の経営行動
第3章 わが国の内外直接投資をめぐる諸問題	第9章 グローバル化とハイロード・アプローチ
第4章 わが国の産業調整とその課題 — 移転産業と育成産業 —	(東洋経済新報社 刊)
第5章 中小製造業のグローバル化と労働市場への影響	